Hondaの交通安全情報紙
SJ
Since 1971

SAFETY-JAPAN
Safety for Everyone
Hondaはすべての人の
交通安全を願い活動しています。

6・7
2014
June・July

●編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒107-8556 東京都港区南青山2−1−1
TEL 03(5412)1736
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/
●編集人：吉田宏樹
※年間購読をご希望の方は、下記までお問合わせください。
㈱アストクリエイティブ　安全運転普及本部係
TEL 03（5439）1191　E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

SJホームページは　ホンダ　SJ　検索

CONTENTS

特集：子どもへの交通安全教育
自ら判断して危険を回避できる力を身につけてもらうために……❶
TOPICS①／ガンレク！フェスタ……❹
TOPICS②／第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会…❹
現場訪問／親子バイクスペシャル ファミリー耐久コンペティション……❺
NEWS REVIEW①／警察庁……❺
NEWS REVIEW②／平成25年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式……❺
STREAM／全国に拡がるHondaの高校生交通安全教育活動 第6回…❻
危険予測トレーニング（KYT）／バス停の近くで（子ども編）……❼
指導者ファイル／静岡県交通安全協会富士地区支部交通安全指導員の皆さん…❼
SJクイズ……❼
SAFETY FOCUS／兵庫県尼崎市……❽

特集：子どもへの交通安全教育

自ら判断して危険を回避できる力を身につけてもらうために

平成25年の歩行中の交通事故死者数を年齢層別にみると、子ども（15歳以下）が占める割合は2.1％であるが、子どもの死者数は前年に比べ微増した。近年、全国で通学路の緊急点検が実施され、必要な安全施設の整備など対策が進んでいるが、その一方、各年代で適切な交通安全教育も必要である。次世代を担う子どもたちの命を守るための、交通安全教育はどうあるべきかを探る。

山形県小国町にある白百合保育園での「かもしかクラブ」

子どもへの交通安全教育においては、幼児期から発達段階に合わせた適切な指導が必要だ。ホンダは、この考え方のもと子どもの成長に応じた教育プログラムや教材を開発している。交通安全教育プログラム「あやとりぃ」[※1]もその1つだ。ホンダでは「あやとりぃ」の教材とともに、指導ノウハウを地域の指導者に提供し、こうした方々によって全国の幼稚園・保育園や小学校の交通安全教室で活用されている。

「あやとりぃ」を活用した幼児への交通安全教室

山形県小国町では、幼児への交通安全教育は「かもしかクラブ」を中心に展開している。この「かもしかクラブ」は町内の全保育園（5園）に設けられ、年間11回にわたって交通安全教室を実施。小国町役場町民税務課町民生活室交通安全専門指導員である佐藤郁さんと保護者の代表者が幼児への指導にあたっている。

佐藤さんは山形県内の指導員の研修会で、ホンダのインストラクターから幼児から小学校低学年対象の「あやとりぃ　ひよこ編」の指導ノウハウを学び、平成25年度より「かもしかクラブ」での指導に取り入れた。「幼児に対しては、いかにかみ砕いて伝えられるかが大切です。その点で『あやとりぃ　ひよこ編』はたいへん役に立っています。交通場面を示すワークシートが街中だけでなく、小国町のような自然が豊かな場所まで用意されているので、子どもたちに親近感を持ってもらえます。また、ワークシートに人やクルマのイラストを貼ってもらうなど、単に話を聞くだけでなく子どもが参加できるようになっている点も効果的です」と佐藤さんは話す。

「あやとりぃ　ひよこ編」を使って指導する小国町役場交通安全専門指導員の佐藤郁さん

5月15日、山形県小国町にある白百合保育園で平成26年度第2回「かもしかクラブ」が始まった。この日は、保護者の伊藤沙織さんと河内真紀子さんが協力。「かもしかクラブ」では毎回、冒頭で前回の復習を行う。伊藤さんが「道路では右側を歩く」「外を歩く時はお母さんやお父さんに手首を握ってもらう」など道路を歩く時の約束事を子どもたちに確認していく。

続いて「今日は道路の渡り方を勉強します」と佐藤さん。子どもたちの目の前には「あやとりぃ　ひよこ編」の大型のワークシートがあり、そこには郊外にある交差点が描かれている。佐藤さんが「どこを歩けばいいか、みんなに教えてくれるかな？」と親子が手をつないでいるイラストを男の子の一人に渡すと、男の子はワークシートの道路の右側端に親子のイラストを貼り付ける。「正解です。ちゃんと白い線（路側帯）の内側に貼ってくれました」と佐藤さんがいうと、他の子どもたちから拍手が起こった。

次に、佐藤さんは同じワークシートに横断歩道のイラストを貼り付け、「道路を渡る時は必ずこの横断歩道のあるところを歩いてください」と説明。「ただし、何もせず、そのまま渡ってしまうとクル

ワークシートにイラストを貼ることで、歩行者は道路のどこを歩くべきか示してもらう

道路を渡る時は横断歩道を利用するように指導

※1 あやとりぃ＝Hondaが三重県鈴鹿市と協力して開発した交通安全教育プログラム。幼児〜小学校低学年対象の「あやとりぃ　ひよこ編」、小学3〜4年生対象の「あやとりぃ」、幼児〜小学校高学年対象の「あやとりぃ　自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者対象の「あやとりぃ　長寿編」がある。あやとりぃは「あんぜんを　やさしく　ときあかし　りかいして　いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatorii/

マとぶつかってしまいます。そこで大切なのが『ストップの約束』です」。

これは道路を横断する際に「ストップ（止まる）→手を上げて横断の意思を示す→手を下ろして右、左、右を確認→横断を開始」という山形県内で幼児に啓発しているルールのこと。右、左、右を確認する時は、腰から上半身を曲げて遠くのほうまでよく観るように佐藤さんは強調する。そして、教室内に横断歩道を示すマットが敷かれ、子どもたちは身体を動かしながら、「ストップの約束」の動作を確認した。

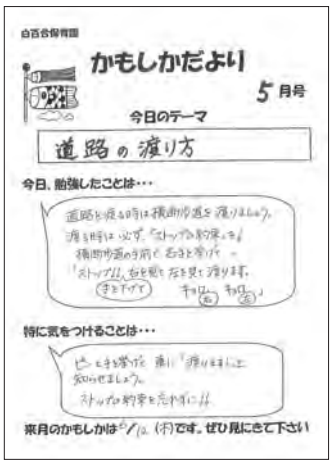
確認の動作が形だけで終わらないように

年長クラスでは、佐藤さんと保護者が横断歩道を渡ろうとする子どもの両側に立ち、様々なキャラクターが描かれたイラストを子どもたちに示す。右、左、右を確認した子ども一人ひとりに、佐藤さんが「何が描いてありましたか?」と質問。答えられなかった子どもには「もう一度よく観てね」と繰り返し尋ねた。「自分の命を守る上で、安全確認はとても重要です。首を振るという動作をすればいいと思っている子どもも少なくありません。視線を送った先に何があるのか把握できて、確認になります。実際の道路でもただ風景を見るのではなく、クルマが来ないかしっかり観ることを身につけてもらうことがねらいです」と、このトレーニングの意義を佐藤さんは話す。

保護者の伊藤さんは「命は1人に1つしかないということを意識づけすることをめざしています」、河内さんは「普段、子どもが友だちの家に歩いて行く時は、横断歩道で一緒にストップの約束を実践しています」と、子どもの安全意識を向上させるために取り組んでいる。「かもしかクラブ」では、その日に幼児が学んだ内容を保護者が「かもしかだより」としてまとめ、それを保育園から他の保護者にも配付している。指導内容を、家庭でも継続できるようにするための工夫である。次回は6月に、雨の日の交通安全、クルマの乗り方と降り方を指導する予定だ。

年長クラスでは模擬の横断歩道を渡ろうとする前に様々なキャラクターが描かれたイラストを示し、幼児に何が描かれているかを答えてから渡ってもらう

小国町の「かもしかクラブ」では保護者が前回の復習（写真上）と今回のまとめ（写真下）を担当



白百合保育園
かもしかだより　5月号
今日のテーマ
道路の渡り方
今日、頑張したことは…
道路を渡る時は横断歩道を渡りましょう。
渡る時は必ず『ストップの約束』を。
横断歩道の手前で右を左を右へ
『ストップ』、左を見て右を見て渡ります。
（まを下げて　キョロ（右）キョロ（左））
特に気をつけることは…
色々な場所で車に『渡りますよ』と知らせましょう。
ストップの約束を忘れずに!!
来月のかもしかは5/12（月）です。ぜひ見にきて下さい

保護者へ配付する「かもしかだより」

小学4年生への危険予測トレーニング

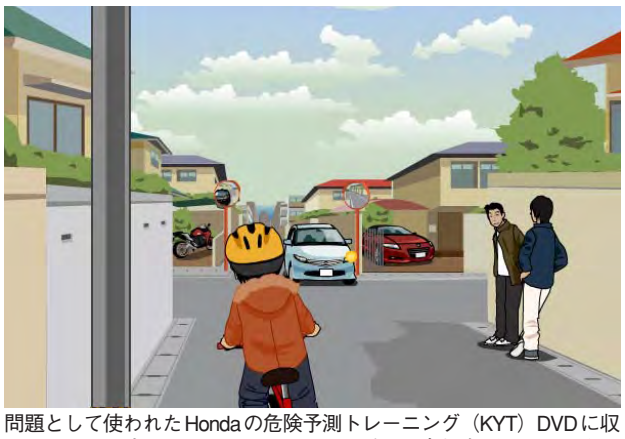
東京都板橋区立高島第五小学校は平成23年度より3年間に渡り、「交通安全」「生活安全」「災害安全」を包括した安全教育の研究に取り組んだ。そのテーマは「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる児童の育成―危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために」。

平成25年度は交通安全の授業の1つとして、小学4年生2クラスの担任（当時）だった入戸野（にっとの）小絵美主任教諭と成瀬喜芳教諭が総合的な学習の時間で「高島平交通安全マップを作ろう」という授業を5回にわたって行った。同校では毎年7月に学年ごとに交通安全教室を開催している。3年生のみ実技による自転車運転講習会を実施し、受講した児童には板橋区が発行する自転車免許証が交付される。「自転車を利用して、行動範囲が広がり始めるのが4年生の頃です。ほとんどの子どもたちは『自分は交通事故に遭わない』『自分だけは大丈夫』と交通事故を他人事のように考えています。そこで、普段利用している道路は安全に見えるかもしれないけれど、危険な場所も存在することを子ども自身に気づいてもらおうと考えたわけです。さらに危険予測の考え方を理解することで、自分の身を守ってほしいと思いました」と、二人はこの授業を計画した背景を話す。

今年2月に行われた1回目の授業は、自転車に乗っている時の映像を見て、起こりうる危険や、問題点について児童に考えてもらうという内容。自転車の事故が起こりやすい危険場面を知って、地域の交通安全マップをつくる必要性を感じてもらうことが目的だ。教材として使うのは、ホンダの「危険予測トレーニング（KYT）DVD」（下記参照）。今回は自転車に乗る小学生が住宅街を走行しているシーンが取り上げられた。このシーンでは、信号機のない交差点を左に曲がろうとしている場面で映像が止まる（左下参照）。交差点の先にあるカーブミラーには右側から近づくクルマが映っていることと、見通しの悪い場所では一時停止して左右の安全を確認する必要があることに気づいてもらうのがねらいである。児童はこの場面でどのような危険があるかを考え、その内容をプリントに記入する。そして、班ごとに意見を交換し合ってから、映像の続きを確認。この場面では、自転車の右側から来るクルマと衝突しそうになる。

「危険な場面の写真やイラストは私たちでも用意できますが、その場面の後に起こることを提示することは容易ではありません。このDVDは、問題となる場面にいたる過程から、クルマなどと衝突しそうになるまでの一連の流れを映像で見せることができます。さらに、クルマの急ブレーキの音でも危険であることが伝わり、子どもを

高島第五小学校では「高島平交通安全マップを作ろう」という授業の導入として、4年生の児童に危険予測トレーニングを行った



問題として使われたHondaの危険予測トレーニング（KYT）DVDに収められている交通場面の1つ。子どもの乗った自転車が下り坂の先の交差点で左折しようとしている

●危険予測トレーニングDVD

四輪車、二輪車、自転車、歩行者のカテゴリーごとに動画で再現された交通場面のケーススタディ計25場面が収められており、免許を持たない学生や高齢者の方でも事故防止のポイントが学べる内容になっている。

価格：3600円＋税
企画・制作：本田技研工業（株）安全運転普及本部
（株）JAF MATE社

※詳しくは以下のホームページを参照
ホンダ　危険予測トレーニング　検索
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/training/

特集：子どもへの交通安全教育

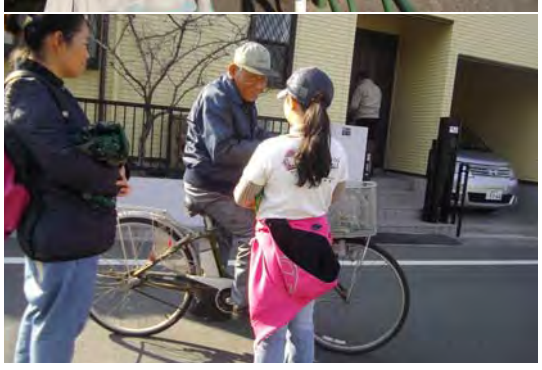
ヒヤッとさせることができるため、危険予測の必要性を子どもたちに理解してもらう上で、たいへん有効な教材です」と入戸野主任教諭は評価する。この授業を受けた児童からは「交差点にあるカーブミラーがどの場所を映しているのかが、よくわかりました」「これまでカーブミラーのことを意識していませんでしたが、見通しの悪い場所ではこれを観れば危険に早く気づけることが勉強になりました」という声が聞かれた。

街の中の危険箇所を児童自ら見つけ出す

2～5回目の授業で、本題である交通安全マップを制作。4つの班ごとに担当地域を振り分け、街の中の危険な場所を探す。児童自ら写真を撮影し、必要があれば歩行者や自転車利用者へのヒアリングも行った。中にはパトロール中の警察官に交通事故の傾向を聞いた児童もいたそうだ。「1回目の授業で、どんな場所が危険なのかを学びました。次は、普段利用する道路でそれに当てはまる場所を自分の力で見つけ出すということがテーマになります」と入戸野主任教諭はいう。児童は自分たちが見つけた危険箇所の写真やコメントを白地図に書き込み、交通安全マップを完成させ、最後の授業で班ごとに発表し合った。そして、見通しの悪い場所は危険である、人がたくさん歩いている歩道は歩行者とぶつかりやすい、下り坂はスピードが出やすいなど、危険ポイントについてクラス全員で共有。入戸野主任教諭と成瀬教諭は、そうした場所を安全に通行するためにはどうすべきかを一人ひとりに考えてもらい、5回にわたる授業は終了となった。児童は「信号機もなく、見通しの悪い場所は意外に多いことがわかりました。そのような場所を通る時は、きちんと周囲の安全を確かめてから渡るようにしています」「人の多い場所では自転車を降りて押し歩きするようになりました」と、授業で気づいたことを交通安全に役立てている。

高島第五小学校の菅徹校長（写真左）、入戸野小絵美主任教諭（写真中央）、成瀬喜芳教諭（写真右）

児童は街を歩きながら危険な場所を探し、班ごとに担当した地域の交通安全マップ発表。児童同士で危険な場所とその理由について意見を交換した


見通しの悪い交差点や自転車の通行量の多い通りなど、児童は街の中で危険が潜んでいると思われる場所を見つけ出した

高島第五小学校の菅徹校長は「子どもたちは交通安全の知識を幼児の頃から持っています。小学生の段階では、学習の中でその知識を行動に結び付けることが課題です。例えば、危険予測の授業ではカーブミラーの存在や使い方を意識づけることができたので、見通しの悪い場所で安全確認を慎重に行うことが習慣になって身についていくのはないでしょうか。私たちは交通安全だけでなく、生活安全、災害安全のための教育にも力を入れています。例えば、マンションや団地で暮らしている子どもが多いので、エレベーターの安全な乗り降りや不審者が乗り込んできた場合の対応も指導しています。いずれも、基本となるのは自分の安全を自分で確保するという考え方を身につけることです」と話す。

0歳から始まる子どもへの安全教育

平成21年に「学校保健法」を改正した「学校保健安全法」が施行されたことを受け、教育現場では学校安全（交通安全・生活安全・災害安全）に取り組んでいる。交通事故、犯罪、自然災害は、いずれも突然やってきて日常というかけがえのない時間を奪っていく危機である。子どもへの安全教育を研究している日本こどもの安全教育総合研究所（特定非営利活動法人）理事長の宮田美恵子さんは、こうした危機に対する心構えと命を守る行動を身につけることが必要だと指摘する。

「子どもが巻き込まれる交通事故や凶悪犯罪が相次ぐ中、『子どもの安全を守る』という言葉がよく聞かれるようになりました。子どもを守るとは、大人が守ってあげるという受身のものだけではなく、子ども自身が自ら判断して行動を起こせるよう生涯役立つ力としての『安全力』を育むことでもあります。こうした安全教育においては『自分の安全を守れる』『他者の安全も守れる』の2つが目標となります。子どもが自分の命を守る行動をとれるようになるためには、『自分は守るべき大切な命を持っているから』『大切な人を悲しませないためにも』という動機づけが必要です。これは0歳の時から始める必要があります。スキンシップなどを通じて、一番身近な保護者が子どもに自分は大切な命を持っている存在であることを感じさせ、自尊感情を育むのです。これが安全教育の土台となります。そして、幼稚園や保育園での交通安全教室も重要な役割を果たしています。頭が柔軟な時期の子どもに約束を守ること、決まりを覚えさせることは大事です。信頼できる人、大切な人から繰り返し教わったことは生涯通用する知識、知恵として身につくでしょう」。

日本こどもの安全教育総合研究所理事長・宮田美恵子さん。日本女子大学人間社会学部客員准教授を経て同研究所を設立。現在は順天堂大学医学部協力研究員として、大学で学生への講義のほか、児童・生徒の授業、および成人を対象とした市民安全のための生涯学習活動にも力を入れている

他者との距離のとり方を身につける

一方、他者の安全を守れるような行動をとってもらうために重要なこととして、宮田さんは距離感の醸成をあげる。「多くの子どもたちが自転車を利用していますから、子どもといえども加害者になる可能性はあるわけです。そうしたリスクを回避するために、身につけてほしいのが、腕を物差しにした3つの距離なのです」。

1つ目は、腕と腕が触れ合える距離。親子や夫婦など、最も親しい人だけが入れる。2つ目は、手をつなげるくらいの距離で、友だちなど知っている人との距離感だ。最後が、お互いに手を伸ばした距離。これは見ず知らずの人と保つべき距離約1・2mを意味する（「パーソナルスペースの概念」T.Hall）。この距離感が最近の子どもたちは曖昧になってきているのではないかと、宮田さんは危惧する。「こうした距離のとり方を身につけておけば、自転車で歩道を走っていて、知らない歩行者の人を追い抜いたり、すれ違ったりする時に安全な間隔を保ち、歩行者に恐怖感を与えないように配慮できるはずです。自分と他者の境界を意識させることは交通事故防止にもつながるでしょう。交通安全教室では、自転車に乗った自分と歩行者との距離感をコントロールできるようになるための訓練も取り入れてほしいと思います」。

他者のことを大切に思えばこそ、その人に不快感を与えない距離が必要で、そうしようと心を配る「思いやり」を持つことは、将来の良き交通社会人となることにつながっていくと宮田さんは考えている。

警察庁の資料によれば、過去5年間の小学1・2年生の歩行中の交通事故死傷者数は、5月から7月にかけて増加傾向がみられる。子どもを交通事故から守るためには、家庭や学校での継続的な教育が必要といえるだろう。

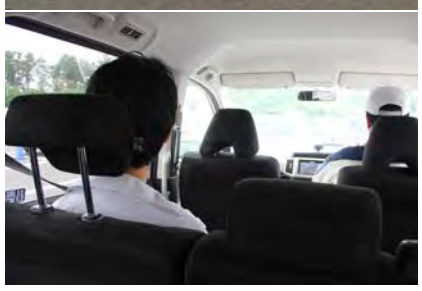
TOPICS 1

●ガンレク！フェスタ

「体験して、初めて分かることがある」家族を対象にした交通安全教室

雁の巣（がんす）レクリエーションセンター（福岡県福岡市・以下、ガンレク）は、野球場や球技場、サイクリングロードなどを備えた施設であり、地域の活性化と魅力づくりに貢献するため、定期的に「ガンレク！フェスタ」（主催：一般社団法人 公園財団）というイベントを開催している。5月6日と6月7日、今年の「ガンレク！フェスタ」第1回と第2回が行われ、ホンダがこれに協力。ホンダの安全運転普及活動の原点である「手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を通じて、子どもから大人までより多くの方々に安全意識を高めてもらうことを目的に「家族で体験！ホンダの交通安全教室」を実施した。

「ガンレク！フェスタ」は毎回、家族連れなど多くの来場者でにぎわう。ホンダのブースには「シートベルト重要性体験」「自転車交通安全教室」（6月7日のみ）「ぬりえ&交通安全クイズ」「ヒヤリマップ作成」（5月6日のみ）などのプログラムが用意され、来場者は興味のあるものを選んで参加する。



シートベルトは正しく着用しないと、その効果が発揮されないことをインストラクターが解説。3km/hの速度で非着用と着用の違いを感じてもらう

「シートベルト重要性体験」では、ホンダのインストラクターが運転するクルマの後部座席に来場者が乗り、シートベルト着用の効果を実感してもらう。最初にシートベルト非着用の状態で、インストラクターが3km／hの速度で急ブレーキをかける。次に、シートベルトを着用した状態で同じことを行い、その際にインストラクターがシートベルトの正しい着用方法を伝える。体験した来場者からは、「たった3km／hでも、非着用と着用での身体の動きの違いがわかったので、後部座席でもシートベルトを締めたい」「今までシートベルトを着用の仕方が間違っていたので今後、注意したい」といった声が聞かれた。

「自転車交通安全教室」はガンレクで貸自転車を利用する来場者が対象。子どもの参加が多く、インストラクターは見通しの悪い模擬の交差点にさしかかると、「止まれ」の標識のある場所では、必ず停止線の手前で止まってから徐々に前に出て、右、左、右の安全を確認するようアドバイスした。

自転車を発進させる時の右後方の確認を身につけてもらう

「ぬりえ&交通安全クイズ」は子どもが対象。交通安全クイズでは年齢に合わせて、標識の意味や基本的な交通ルール、危険予測トレーニングなどを出題し、全問正解者には交通安全オリジナルグッズがプレゼントされた。

「ヒヤリマップ作成」では来場者やガンレクのスタッフに協力していただき、地図上にヒヤリとした経験がある場所をシールで示してもらう。完成したヒヤリマップ（写真参照）はガンレク内に掲示された。

また、四輪販売会社のホンダカーズ福岡はブース内にホンダの新型車両を展示し、スタッフが来場者に車両の安全デバイスの紹介や安全アドバイスを行った。

交通安全教室には5月6日と6月7日で合計465名が参加。様々な体験を通じ、家族で交通安全について考えてもらえる機会になったといえるだろう。

Hondaは福岡東警察署とガンレク、Honda Cars福岡に作成したヒヤリマップを寄贈

お父さんやお母さんと一緒に、交通安全クイズに取り組む子どもたち

停止線の手前で止まった後、前に出て右、左、右の安全を確認

2

●第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会

76校147名の教習指導員が安全運転指導の基礎となる運転技術を競い合う

開会式で挨拶を行う加藤四郎・一般社団法人 全日本指定自動車教習所協会連合会教習部長

6月5日、6日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センター（三重県鈴鹿市）で「第14回全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会」（主催：本田技研工業（株）安全運転普及本部、後援：一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会、本田技研工業（株）法人営業部）が開催された。同大会は、全国の教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎年行われている。

開会式では、大会運営委員長を務める吉田宏樹・本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長と、来賓を代表して、加藤四郎・一般社団法人全日本指定自動車教習所協会連合会教習部長が挨拶を行った。

今大会には24都府県76校から147名の選手が参加。さらに、各競技の審判として、16校17名の教習指導員が協力した。選手は普通二輪部門、大型二輪部門、四輪部門に分かれ、運転技術の正確さやタイムを競う4種目の実技競技と、二輪は低速バランス、四輪は車庫入れをテーマとした実技指導力に取り組んだ。

表彰式では大会会長の峯川尚・本田技研工業（株）安全運転普及本部本部長から入賞した選手にトロフィが手渡された。また、普通二輪部門総合1位のドリームモータースクール昭和（長野県）・三浦剛基さん、同2位のユタカ自動車学校（愛知県）・吉川堅多さん、大型二輪部門総合1位の新東京自動車教習所（東京都）・栗原慎吾さん、同2位のアヤハ水口自動車教習所（滋賀県）・堀井久登さん、四輪部門総合1位の山城田辺自動車学校（京都府）・田中裕介さん、同2位のネヤガワドライビングスクール（大阪府）・井上大樹さんには、全日本指定自動車教習所協会連合会会長賞が贈呈された。

大型二輪部門「一本橋」

普通二輪部門「コーススラローム」

四輪部門「コーススラローム」

四輪部門「縦列駐車／車庫入れ」

現場訪問――●親子バイクスペシャル　ファミリー耐久コンペティション

限られた燃料でどれだけ長く走れるか 親子のチーム対抗で競う

ホンダの交通教育センターでは小学生とその親を対象に、バイクを運転する体験を親子で共有することで交通安全の基本を学び、親子の絆を深めてもらうことを目的に「親子でバイクを楽しむ会（以下、親子バイク）」を開催している。鈴鹿サーキット交通教育センターは一昨年から、この親子バイクのスペシャル企画として、「ファミリー耐久コンペティション」（通称「エコ耐」）を実施。これはガソリン300ccで指定されたコースを親子で交代しながら走行し、制限時間90分でどれだけ長い距離を走れるかをレース形式で競うものである。親子バイクの受講経験のある親子2人以上が1チームでエントリーできる。発案者である同センターの中道直樹インストラクターは「安全に加えて、環境問題やエコ運転についても親子で話すきっかけにしてほしいと企画しました」と話す。毎回多くの参加申込みがあり、参加者からも好評だったため、2014年度は全4戦でシリーズチャンピオンを決めるというレギュレーションを導入。その第1戦が5月5日に行われた。

スタート前に雨が降ったため、ウェットコンディションでレースがスタート。速度は出ていないものの白熱したレースが展開された

インストラクターがメスシリンダーでガソリンを正確に計測して各チームに配給

この日は14チーム（大人14名・子ども18名）が出場。競技に使用するバイクは、ホンダのCRF70またはCRF50で、1台の車両を親子が交代で運転する。

午前10時30分から始まったオリエンテーションでは、中道インストラクターが走行ルールを親子に説明。途中でガソリンが無くなり、走行ができなくなった場合、ピットに戻れば1回（50cc）のみ給油が可能だが、周回数から7周が引かれる。指定場所では追い越しが可能だが、それ以外の区間ではペナルティが科せられる。

公式練習を経て、午後2時30分に決勝レースとなった。スタートライダーは全チーム、子どもが務める。ガソリンを減らさないように、1周約700mのコースを低速で慎重に走行した。そして、子どもから親にライダー交代。大人は追い越し可能区間で前車を抜こうとついついアクセルを開けてしまう。途中でガス欠になり、ピットで給油を申請するチームが続出。4時にレース終了を示すチェッカーフラッグが降られた。

親子で事前に打ち合わせた周回数でピットに入り、ライダー交代を繰り返す

チェッカーフラッグの合図でレース終了

ガス欠になったチームは1回のみ給油が認められる

ピットの出口では後方の安全を確認してからコースに合流するように徹底された

表彰式では50ccクラスと70ccクラスの上位3チームに表彰状が手渡された。第1戦の総合優勝は大阪府から参加した伊藤芳樹さんと祐樹くんの親子チーム。祐樹くんは「なるべく急な加速をしないように、アクセル操作に気をつけて走れたのが良かったと思います」と勝因をあげた。「どうしたら燃費を上げられるか、子どもとの作戦会議も楽しかった。シリーズチャンピオンをめざして、次戦以降も参加したいと思います」と父親の芳樹さんは感想を語った。

44周を記録し、総合優勝した伊藤祐樹くん（写真左）と芳樹さん（写真右）

NEWS REVIEW

1 ●警察庁 春から初夏にかけて増加が目立つ自動二輪車の交通事故

警察庁は4月、春から初夏にかけて増加が目立つ交通事故の特徴と対策についてまとめた。この中で、過去5年間（平成21～25年）の自動二輪車乗車中の死者数は4月から6月にかけて増加しており、年齢層別では16～24歳（24.4％）、40～49歳（21.7％）、30～39歳（19.2％）の順に多くなっていることが報告されている。また通行目的別では、ドライブ目的が増加し、土曜日・日曜日は平日の約2倍になっている。警察庁交通局交通企画課の柴田亙課長補佐は「春から初夏にかけての死者数の増加傾向は、週末に趣味としてバイクを利用するライダーの事故が影響しているものと考えられます。死者数の月別推移を見ると、7月以降も少なくなっているわけではありません。特に、若者や中高年齢層のライダーの方々はツーリングへ行かれる際、疲れる前に休息をとり、安全運転を心がけてほしいと思います」と話す。

こうした二輪車の事故を防止するため、Hondaは全国の交通教育センターや二輪販売会社が開催しているバイクのスクールを通じて、ライダーへの安全運転教育を実施している。昨年からは、より多くのライダーが気軽に参加できるHondaレクリエーションプログラムを開始するなど、ライダーの更なる安全意識の向上を図っていく考えだ。

2 ●平成25年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式 様々な交通問題に関する研究成果を発表

4月11日、経団連会館・ホール（東京都千代田区）で「平成25年度国際交通安全学会研究調査報告会ならびに学会賞贈呈式」が開催された。

研究調査報告会は、平成25年度に成果が明らかになった研究プロジェクトの中から①「ラウンドアバウトの社会実装と普及促進に関する研究」②「持続可能な開発ための教育（ESD※）を通した安全教育の実現に関する研究」③「睡眠障害スクリーニングの普及推進を目指した学際的研究」④「『天下の公道』と生活道路に関する研究～ソフトライジングボラードの実用化に向けた運用上の課題とその解決方法～」の4テーマが発表された。

②では北村友人・東京大学大学院教育学研究科准教授が学校現場ならびに地域社会と連携しながら、交通・生活・災害を総合的に捉える安全教育のあり方を検証。さらに、新しい教育のアプローチである「持続可能な開発ための教育（ESD）」の概念を踏まえて、小・中学校において「地域安全マップ」などの作成を行う安全教育を行った。その結果、「交通安全」の領域から安全教育を導入することが最もスムーズに実施できることが確認できたと報告した。

35回目となる国際交通安全学会賞の表彰も合わせて行われ、業績部門では京丹後市と丹後海陸交通（株）による「現状に即した合理的な地域公共交通の再生―京丹後市における行政と事業者との協働による上限200円バス等の取り組み」、飯田市による「飯田市の並木を軸とする都市・交通空間の再構築の取り組み」が受賞した（著作部門、論文部門は該当者なし）。

※ESD＝Education for Sustainable Development

STREAM
交通安全教育の潮流

全国に拡がるHondaの高校生交通安全教育活動　連載：第6回

生徒指導部とクラス担任の先生方が協力して Hondaのノウハウを活用した教育を実践

このコーナーでは、ホンダが全国で取り組んでいる高校生交通安全教育を取り上げている。今回は、三重県津市にあるセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の先生方がホンダのノウハウを活用して生徒に交通安全教育を行った事例を紹介する。

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の交通安全の授業は4月11日の6限目と7限目の各50分を使って実施された。同校生徒指導部の小山勝弘教諭は「現在は生徒の3～4割が自宅から学校まで自転車を利用しています。帰宅後や休日に自転車を利用する生徒もいますから、自転車に乗っている時は事故に遭う可能性があることを意識してもらう必要があるのです。これまではクラスごとのホームルームの1時限で交通安全に関する指導を行っていました。昨年、ホンダによる高校生交通安全教育のことを知り、今年はこれを取り入れ、時間も2時限に拡大したというわけです」と話す。

セントヨゼフ女子学園高等学校・中学校の全クラスで担任の先生方がHondaの高校生交通安全教育（感受性教育）を活用して、交通安全の授業を実施

自転車が守るべきルールとは?

6限目は高校と中学校の全生徒525名を体育館に集め、小山教諭が自転車教育の座学を行った。ホンダが提供した資料をもとに小山教諭が解説を加えていく。「皆さんは子どもの頃から交通安全教育を受けてきたと思います。その時に、言われたのは『交通ルール、マナーを守ろう』という言葉だったはずです。では、このルールとマナーとはどういうことでしょうか?」と小山教諭は問いかける。そして、ルールは法律や校則のように、人が従うべき規則であり、マナーは礼儀や作法など、人に対する思いやりの心であること、このルールとマナーが交通安全にとっても重要であることを説明。「道路を通行するために定められたルールが道路交通法です。この道路交通法で、自転車は軽車両と定義されています。車両の仲間ですから、皆さんも自転車に乗る時はクルマやバイクと同じように道路交通法を守らなければいけません」と強調した。

さらに、自転車事故は交差点での出会い頭衝突が多いことから、同校の周辺にある見通しの悪い交差点の写真をいくつか見せ、こうした交差点での安全な通行方法をアドバイス。また、高校生による自転車の加害事故を紹介し、加害者になった場合は「刑事上の責任」「民事上の責任」「道義的な責任」が問われることを解説した。

生徒指導部の小山教諭による座学。同校の周辺にある見通しの悪い交差点の写真を提示するなど、こうした場所での一時停止と安全確認の必要性を解説

事故事例をもとに生徒同士で話し合う

7限目は教室に戻り、高校・中学校の各クラスで担任の先生方による感受性教育となる。感受性教育とは、実際に中学生・高校生が加害者となった自転車事故の事例などをもとに生徒同士が話し合うことで、安全意識の向上を図るものである。先生方はホンダの中学生・高校生向け自転車教育用※ワークシートを使って授業を進める。このワークシートは実際に起きた事故事例から、生徒が日頃の自分の行動を振り返ることができるようになっている。

高校2年生のクラスでは「信号無視による交通事故」（下記参照）を取り上げた。先生が設定場面と事故の経緯を説明。生徒たちは、「この事故がなぜ起きたのか」「事故を起こす直前の自転車利用者の心理状態」「事故が起きると、後々どんな影響が出るか」を考え、ワークシートにまとめていく。そして班に分かれ、グループ・ディスカッションを行い、話し合った内容を、各班の代表者が黒板に書き込む。

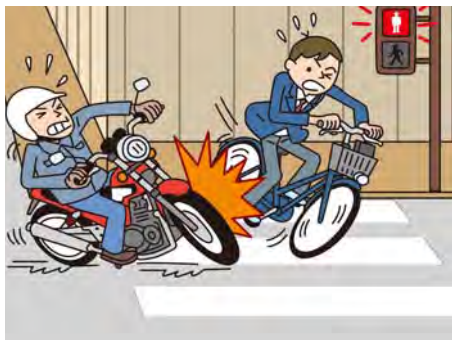
事故の原因については、すべての班が自転車利用者の信号無視であると発表した。先生が「私たちが道路を利用する際に、まずやるべきことは交通ルールを守ることです。これを実践していれば、相手を傷つけることはありませんし、自分の身を守ることにもつながります。自転車利用者が交通ルールを守っていれば、事故は起きなかったといえるでしょう」と補足する。

次に自転車利用者の心理状態について、「朝なので自転車を運転していた高校生は、登校中だったのでしょう。信号無視をしなければいけないほど急いでいたと推測できます。こうした状況にならないためには、どうすればいいでしょうか?」と先生が質問。生徒たちは「早く起きて、余裕を持って家を出る」と答えた。「そうです。少し早く準備をして登校すれば、信号無視をすることはなかったかもしれません」。

事故の加害者になった場合の責任を考える

事故が起きた影響として、被害者だけでなく、その遺族の人生をくるわせてしまうことを先生が指摘する。「このケースでは被害者は死亡しているので、約4000万円という高額の賠償金を支払うことが命じられています。高校生にはその能力はありませんから、保護者が代わりに支払うことになるのです。もし、事故の加害者になった場合は、自分はもちろん家族の未来も変わってしまうことを忘れないでください」。

最後に、生徒がこれまでのヒヤリ体験を発表し合い、生徒一人ひとりが交通事故防止に向けた決意をワークシートに記入し、7限目の授業は終了した。



高校2年生のクラスで使用されたワークシートの事故事例＝信号無視による交通事故「男子高校生が朝、赤信号で交差点の横断歩道を進行したところ、男性のバイクと衝突。バイクの男性は13日後に亡くなり、男子高校生には4032万円の賠償命令が下された」

座学を担当した小山教諭は「ホンダから提供された座学用のスライドには自転車教育に必要なことが、すべて網羅されていました。また、イラストや動画も豊富に使われているので、生徒たちにわかりやすい説明ができたと思います」と感想を述べた。

感受性教育を担当した一人、伊藤晴紀教諭は「ワークシートの題材が高校生の事故事例なので、生徒たちが交通事故を身近に感じることができる内容だったと思います。自分が事故の加害者になってしまった時のことをイメージして、交通ルールを守ることの重要性を理解してくれたはずです。生徒たちが自分で考えた意見を発表するというプロセスもあり、座学と合わせて充実した指導ができました」と語る。

セントヨゼフ女子学園における2限を使った授業は学校が主体となり、生徒指導部とクラス担任の先生方が協力して、生徒への交通安全教育に取り組んだ好事例といえるだろう。

班の代表者が討議の結果を黒板に書き込み発表。クラス全体で議論しながら信号無視の危険性を共有する

生徒たちは事故事例に対する自分の考えを記入した後、班に分かれてグループ討議を行う

※ワークシートと指導案は以下のホームページよりダウンロードが可能（無料）。 http://www.honda.co.jp/safetyinfo/junior/

危険予測トレーニング（KYT）――危険感受性を育てる　第39回 バス停の近くで（子ども編）

交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は子どもに、飛び出しの危険について考えてもらうためのKYTです。

あなたは遊びに行く途中、バス停で友だちと、そのお母さんがちょうど、バスから降りてきたことに気づきました。
あなたは声をかけて、二人のところに向かおうとしています。

このような時、どんなことに気をつければ良いか考えてみましょう。

Ⓒ本田技研工業（株）

活用方法

❶少人数のグループをつくります。
❷「交通場面のイラスト」を見せながら、意見を出し合います。
❸その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつけて運転すれば良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード（無料）できます。

ホンダ　SJ　検索

【使用上の注意】
●営利目的での利用はおやめください。
●内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
●その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL：03（5412）1736
E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

指導者ファイル 20

このコーナーでは、地域で活躍する交通安全教育に携わる指導者の方々を紹介していきます。

静岡県交通安全協会富士地区支部の交通安全指導員の皆さん
（後列左から）小澤雪江さん、秋山恵理さん、菊池絵美子さん、髙橋 佑奈さん、千野文香さん
（前列左から）三浦徳子さん、勝又美和子さん、望月千恵さん、後藤英里子さん、梅田礼子さん、藤原知世さん

体験を重視した指導を実践

静岡県交通安全協会は、県内を30の地区に分けて交通安全教育を展開している。その1つが富士地区支部である。県東部に位置する富士市を12名の交通安全指導員が担当し、平成25年は幼児、小・中学生、高校生、高齢者を中心に406回の交通安全教室を開催した。

同支部では、子どもに対して体験を通じた教育を重視している。例えば、幼稚園･保育園では園庭などで歩行訓練を実施。さらに、約半数の幼稚園・保育園で年長クラスを対象に園外を歩きながら指導を行っている。リーダーである係長交通安全指導員の小澤雪江さんは「本当のクルマや電車を見せながら指導することで、『止まる』という行為の必要性を子どもたちに理解してもらうことができます」と話す。また、今年4月からは、Hondaの高校生交通安全教育の実技による自転車教育のノウハウを中学校や高校の交通安全教室で活用している。

今、静岡県交通安全協会が力を入れているのは反射材の普及である。「自発光式反射材を身につけていただくことで、自身の存在を周囲に知らせることになり、安全であることを、高齢者を中心に啓発しています」と小澤さんはいう。

★幼稚園・保育園での歩行訓練

富士市にある須津幼稚園での歩行訓練。歩行者用信号が青でもクルマが来る場合があるため、左右だけでなく後方も確認することを伝える

年長クラスの幼児は先生や指導員と周辺の道路を歩く。同園の近くには遮断機のない踏切があるため、渡る前に必ず止まって自分の目と耳で電車が来ていないことを確かめるように指導する

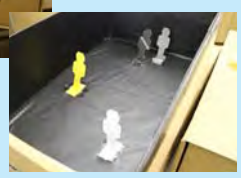
★高校での自転車教育

静岡県立吉原高等学校での交通安全教室。Hondaの高校生交通安全教育のプログラムの1つ、8の字走行を通じて、思いやりや譲り合いの大切さを生徒に考えてもらった

★信号の色の意味や反射材の効果を理解してもらうための手づくり教材

黄色の丸がひよこ、赤の丸がタコに変形する。幼児に信号機の色を印象づけるためのもの

箱の小窓から中をのぞくと暗くて何も見えないが、ペンライトなどを当てると反射材が光ってよく目立つように見える



指導者の皆さんの活動を動画でご紹介
http://www.honda.co.jp/safetyinfo/area/movie/

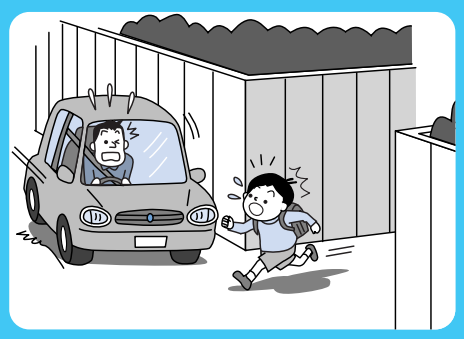
SJクイズ ?

Q1 平成25年の子ども（15歳以下）の交通事故負傷者数は5万5604人と前年に比べ5.9％減少しましたが、子どもの死者数は前年に比べ、どのような状況でしょうか？

①約2％増加　②約1％増加
③約1％減少　④約2％減少

Q2 平成25年の交通事故死傷者数を年齢層別・状態別にみると、子どもの歩行中の割合は何歳がピークとなっているでしょう？

①5歳　②7歳
③9歳　④11歳



Q3 過去5年間（平成21～25年）の小学1･2年生の歩行中死傷者数を月別にみると、最も多いのは何月でしょう？

①4月　②5月
③6月　④7月

※「解答」は8面下。「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。http://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/

Ⓒ本田技研工業（株）

安全な道路環境をめざして 2

SAFETY FOCUS

路地からの車両や横断する歩行者を意識しにくい信号機のない交差点

「SAFETY FOCUS」は、ホンダが公開している「SAFETY MAP」に示される交通上の危険が潜むスポットに足を運び、現場の交通環境と事故防止について考察する連載記事です。

「SAFETY MAP」には「みんなの意見」として一般投稿された危険スポット情報が地図上に表示されている。今回「FOCUSエリア」（下図参照）に取り上げるのは、兵庫県内で4人の方が「みんなの意見」を投稿している場所だ。ここには、スピードが出ているクルマが多い（2人）、歩行者／自転車の飛び出しが多い（2人）などの投稿が寄せられている。また、急ブレーキ多発地点の表示も出ているこの場所では、平成24年中に交通事故が7件発生しており、車両相互の出会い頭や右直などの事故が起きている。

●この交差点付近で発生した事故件数

事故類型		件数
車両相互	右直	2
	出会い頭	2
	右折／左折	2
	追突	1

※平成24年中、兵庫県警察本部提供

●「SAFETY MAP」みんなの意見

危ないと感じる理由	そう思う人
スピードが出ているクルマが多い	2人
歩行者／自転車の飛び出しが多い	2人

※平成26年5月29日時点

「SAFETY MAP」の表示

現場をたずねる

阪急神戸線園田駅近くの県道41号線にある、信号機が設置されていない交差点が今回の現場だ。道路北側から進むドライバーは、鉄道高架を抜けた後、2つの交差点を通過する。1つ目（②）は信号機が設置されているため目視しやすいが、2つ目（①：今回の現場）は地面の高低差がほとんどないため横断歩道の標示が見えにくい。今回の現場の東側にある道路は抜け道として利用されており、県道からの右左折車両と県道へ合流する車両が往来する。自転車や歩行者も行き交うため、道幅が狭い割に交通量が多く、見通しがきかない場所となっている。

現場をたずねたのは通勤・通学時間帯の午前6時半から8時半頃。県道を走行するクルマは多く、7時を過ぎた頃からは自転車の数も増加した。現場の交差点を通過する車両のうち、一時停止を無視したクルマとバイクは全体の半数以上だった。しかも、自転車は通過台数のすべてが一時停止を無視していた。また、一時停止を実施していた車両であっても、停止線の手前で停止したのはクルマが2割弱、バイクが1割弱だった。

FOCUSエリア　兵庫県尼崎市東園田町9丁目　県道41号線

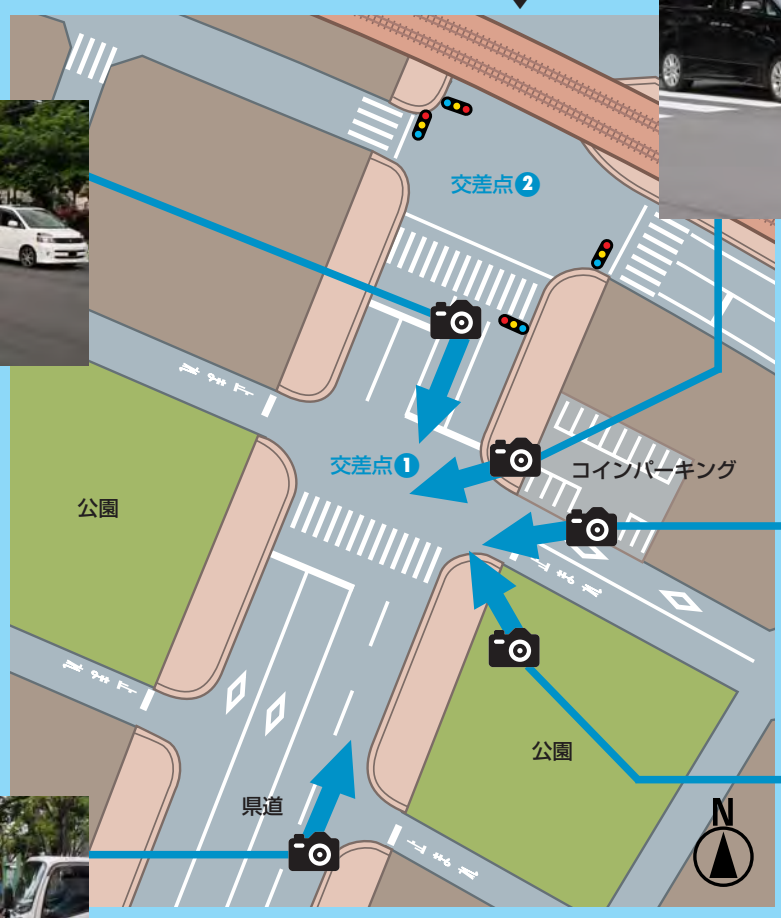
対向車がいない時は、車道の途中からショートカットして右折するクルマが目立った

●この地点を通過する車両の一時停止の状況（台数）

		四輪車	二輪車	自転車
一時停止実施	停止線の手前	16 17.8%	1 7.1%	0 0%
	停止線を越す	28 31.1%	5 35.7%	0 0%
一時停止無視		46 51.1%	8 57.2%	21 100%
合計		90 100%	14 100%	21 100%

※観察日：平成26年5月23日 午前6時30分～8時30分

右左折のクルマで立ち往生したため、自転車は車道に大きくはみ出して走行



横断歩道上に停車するクルマをすり抜けて横断する歩行者

停止線の手前で止まるのは交差する道路に自転車や歩行者がいる場合がほとんどだった

車道を走行していた自転車は一時停止せず右折していた

停止線手前での一時停止が出会い頭事故を防ぐ

今回、注目したのは交差点①。ここは路地から県道に進入する際、運転者から見ると、進行方向右側のコインパーキングと左側の公園の植え込みが視界を遮るため、交差点進入前に歩道を走る自転車や歩行者には気づきにくい。さらに左側の歩道は傾斜がついており、自転車のスピードが出やすくなっている。このような状況では、出会い頭事故を防ぐため、運転者は停止線の手前で停止した後、交差する道路を見通せる位置まで進行し、左右の安全確認をした上で通過しなければならない。

また、交差点①の横断歩道上にクルマが停止するケースも多く見られた。これは歩行者が停止車両の間を縫って横断せざるを得なくなるため、横断の妨げになり危険である。運転者は横断歩道上にクルマを停車させてはいけないことはもちろんだが、横断歩道付近では対向車線の停止車両の死角から歩行者が横断してくることを予測して運転する必要がある。

交差点や横断歩道の存在をいかに気づかせるか

この県道は制限速度が50km／hであるため、走行する車両のスピードは全体的に高い。横断歩道脇には北側から走行する車両に対し、「スピード落せ」の看板が設置されているが、街路樹と同化して、運転者にはわかりにくいように思われた。そのためか、減速する車両はなかった。交差点①では一時停止をせずに合流する車両も多い。出会い頭事故を防ぐためにも、路面表示等で県道を走行する運転者に交差点および横断歩道の存在を気づかせることが必要だと感じられた。

さらに「SAFETY MAP」で交差点①をみると、急ブレーキ多発地点の表示がある。現場を視察した大阪市立大学大学院工学研究科の吉田長裕准教授はこれに着目した。「県道は片側2車線になっています。南側から鉄道高架に向かって右車線を走行中のクルマが交差点①を右折しようと合図を出した時、後続車のドライバーは『前車は交差点②を右折する』と考えてしまうはずです。そのまま右折していけば問題ありませんが、対向車や横断歩道に歩行者がいる時は交差点①の手前で停止してしまい、後続車が急ブレーキをかけざるを得ない状況が発生しているのではないでしょうか。例えば、右側車線を交差点①の手前から右折専用レーンにしておくと、急ブレーキが減り、追突事故発生のリスクも低減できると考えられます」と指摘する。

今回の観察に同行した兵庫県警察本部では今後、安全対策を検討していく考えだ。

交差点①には「スピード落せ」の看板が設置されているが、減速する車両はほとんどなかった

県道では横断歩道以外の場所を渡ろうとする歩行者もいた

交差点①の横断歩道を渡る歩行者。対向車線を走行する車両の様子を確認しながら横断していた

「SAFETY MAP」のご活用・ご参加をお願いします！
ホンダ　セーフティマップ　検索
http://www.honda.co.jp/safetymap/

「SAFETY MAP」は「みんなでつくる安全マップ」です。Hondaのインターナビが集めた日本中を走るクルマの急ブレーキ情報と、交通事故情報、そして皆さんの声で地図はつくられます。お手持ちのPC・スマートフォンからアクセスできますので、あなたの周囲に危ないと感じることのある場所があったら、情報を投稿してください。

PRINTED WITH SOY INK 本冊子は再生紙に植物インキで印刷しています。

次号は2014年8月20日発行予定となります。

（SJクイズの解答：Q1①、Q2②、Q3③）